

介護ニーズ最前線

団塊の世代を知る

阪本 節郎

人生100年時代 未来ビジョン研究所 所長

第8回

グルメとフィットネスで
新しい風

さかもと・せつお ● 1975年早稲田大学商学部卒。㈱博報堂入社。プロモーション企画実務、研究開発に従事の後、企業のソーシャルマーケティング開発を推進。2000年にエルダービジネス推進室、11年に新しい大人文化研究所を設立。さらに、19年に独立し当研究所を創設、現在、所長。著書『50歳を超えたらもう年をとらない46の法則』（講談社＋α新書）『シニアマーケティングはなぜうまくいかないのか？新しい大人消費が日本を動かす』（日経新聞出版社、韓国版、台湾版）他

今後利用者として「団塊の世代」が激増していくなか、新たな高齢者像を知り、介護ニーズを理解するため、団塊の世代の実情や志向、団塊の世代がもたらす介護現場への影響について解説します。

団塊はグルメ第一世代

現在、ネットでもテレビでも雑誌でもグルメ情報があふれていますが、その第一世代も団塊世代です。彼らが30代前半で「スニーカーミドル」と呼ばれた1980年代初めに、わが国で初めてのグルメランキング本である『東京味のグランプリ200』（1982年）が発刊され、荻窪の春木屋、丸福というラーメン店に行列ができてラーメンブームが起きました。まさに現在のグルメやラーメンブームの原点だったといえます。

その団塊も高齢者。従来は高齢者＝粗食が当たり前で、食が細くなる、和食志向になる、ということが常識でした。介護施設でもそういう高齢者が今まで利用者だったといえるでしょう。

ところが、団塊世代がリタイアする頃から様相が一変しました。まず、「あなたは肉料理を好きですか」という質問に団塊世代を含む60代の82・3%が「好き」と答えています（図表）。食が細くなるというのとは180度異なると言ってもいい結果です。これを「肉食エルダー」と呼んでいます。さらに「あなたは食べることに楽しみを感じていますか」という質

問には、60代の91・3%が「楽しみを感じる」と答えました。まさにグルメ第一世代です。

グルメな介護施設

介護施設でも食べやすさを最優先したミキサー食が批判され、料理としてのおいしさも求められるなど、全国のどの介護施設でも食が大きく改善されてきました。とりわけ民間介護施設では「食事のおいしさ」がその施設の魅力を左右するようになっており、団塊の世代においては今まで以上に決定的な意味を持つといえます。

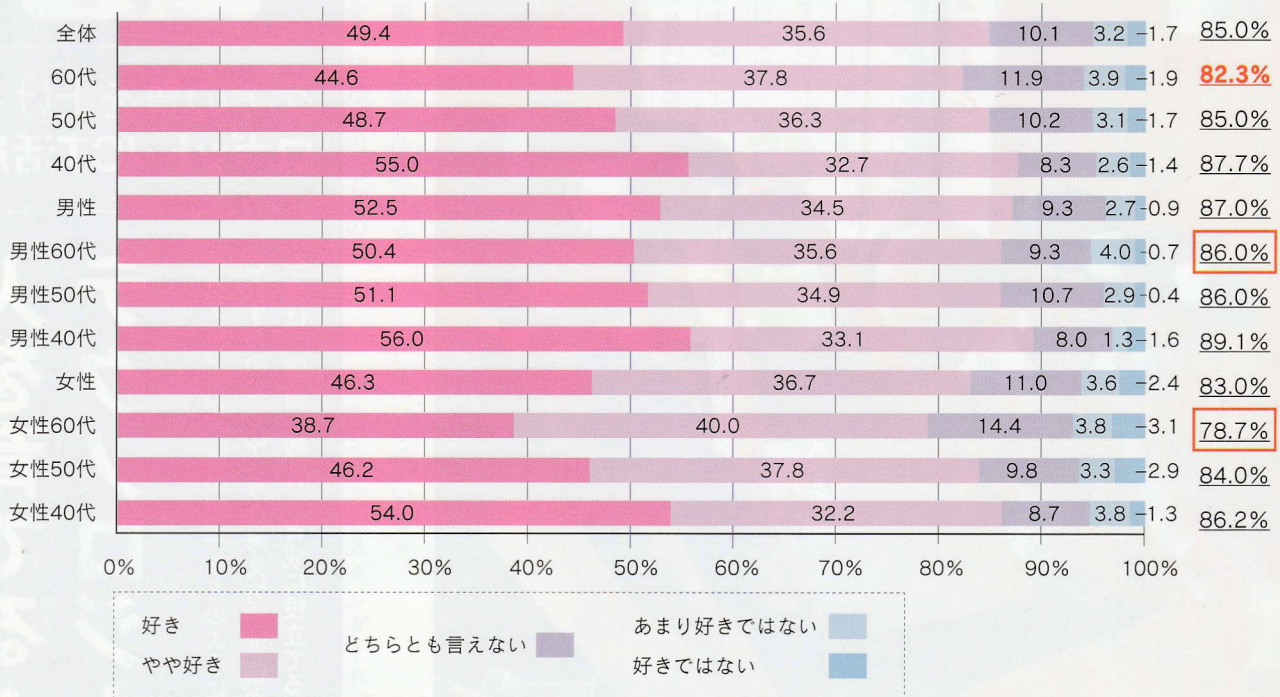
とはいえ、嚥下の問題もあり、グルメと食べやすさ、柔らかさは二律背反の面もあります。食は不満もたまりやすく、そこで団塊世代のウチンク好きが、ひとつの方法論となります。つまり、食に「情報を付加」すること、○○産のナントカ、とか、○○地方に伝わる製法でつくられたナントカということ。たとえば、毎月全国の食を巡るようにするとそれだけで新しい食の楽しみができるというものです。

フィットネス第一世代も

団塊世代

図表 料理カテゴリー好意度 (肉料理)

Q.あなたは肉料理を好きですか？



出典：博報堂新しい大人文化研究所調査

ダイエットやフィットネスという言葉もグルメとほぼ同様に1970年代後半から1980年代にかけて最初に流行したといえます。多くのフィットネスクラブが誕生し、シェイプアップという言葉も流行りました。

実は、60代に対する調査で、健康診断・適度な運動・本を読むようにするなど何らかの介護予防行動をしているという割合は、83・5%に上ります。実際にはジムやヨガに行っているわけです。

これを介護施設にあてはめるとどうなるかといえば、今までの高齢者に比べて数段リハビリやエクササイズに熱心な利用者が増えるということです。実は団塊世代から高齢者の健康に対する考え方が大きく変化をしています。50代を過ぎれば、高血圧・糖尿病・腰痛・ガンなどの生活習慣病に悩まされます。従来の高齢者は仕方ないとあきらめていましたが、サプリメントや医薬品が続々と発売され、整体院も街中に増え、不治の病だったガンもいまや治る病気となってきました。身体が不調になっても元に戻るのではないかと、治るのではないかと、多くの人が

思うようになりました。したがって介護施設に入ってもリハビリ用具やプログラムがあればとりあえずはやってみようと思うわけです。

要介護度1、2であれば自宅に戻れる利用が増える可能性もあります。すでにリハビリ特化型デイサービスもあり、新規利用者をどんどん増やして経営を成り立たせているようです。その意味では介護施設自体が変わっていく可能性も秘めています。

グルメとフィットネスで風景が変わるか

神戸市の「パンじい」というNPO法人の試みがあります。高齢男性が粉をこね、汗を流してパンとスイーツづくりに励んでいるもので、グルメとフィットネスを兼ねているといえるかもしれません。これからの介護施設のレクリエーションとしてもあるように思います。すでにそういう取り組みをされている施設もあるのでないでしょうか。グルメとフィットネスにより介護施設の風景もこれから大きく変わる可能性があるといえそうです。